

# 児童生徒の学力・進路、大学入試改革等の 状況について

# 第2期しまね教育ビジョン21の全体構造

## 島根の教育目標

## 重点目標

## 施策（具体的な事業や取組）

### 向かっていく学力

夢や希望に向かって主体的に学ぼうとする人を育てます

学ぶ力・学んだ力

情報活用力

意欲・たくましさ

- 学力の育成
  - ものづくり活動の推進
  - 情報教育の推進
  - 読書活動の推進
- など

### 広がっていく社会力

多様な人と積極的に関わり、社会に役立つようとする人を育てます

社会性

コミュニケーション力  
国際性

島根への愛着と理解

- 社会性の育成
  - コミュニケーション能力の育成
  - 国際理解教育の推進
  - ふるさと教育の推進
  - 学び直しや就労に向けての支援
- など

# 『学力』とは

学 力

学んだ力

知識

技能

+

思考力

判断力

表現力

問題発見・解決力

学ぶ力

学習意欲

知的好奇心

学習計画力



## ○プランの3本の柱

### 1 授業の質の向上

- ・学ぶ力・学んだ力を高める授業の推進

### 2 家庭学習の充実

- ・授業と家庭学習をつなぐサイクル

### 3 学校マネジメントの強化

- ・学力育成のためのマネジメント力

# 島根県の小・中学生の学力について

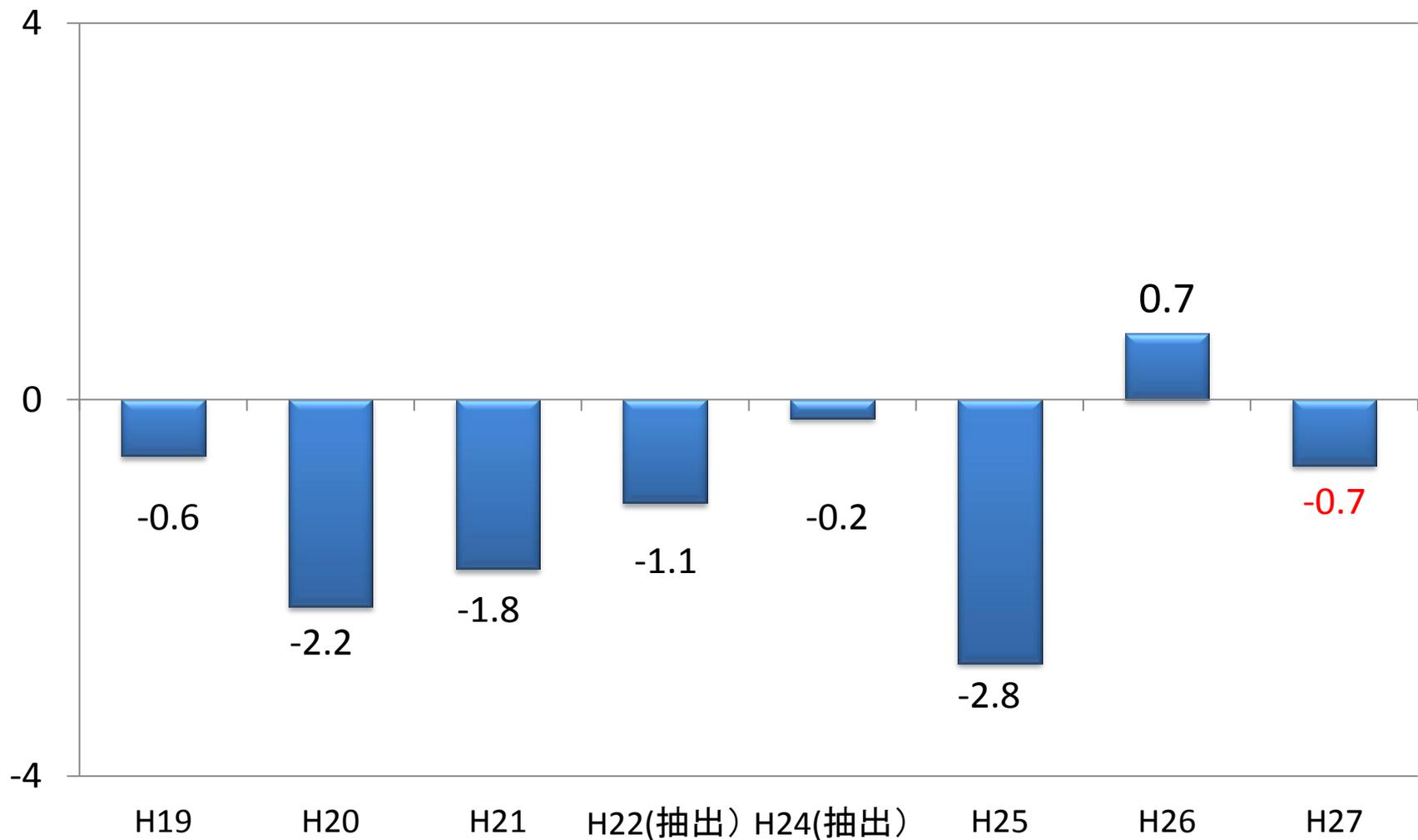
(全国学力・学習状況調査結果より)

- 1 対象 小学校第6学年、中学校第3学年
- 2 実施日 平成27年4月21日(火)
- 3 調査の内容
  - ①教科に関する調査
    - A問題 主として「知識」に関する問題
    - B問題 主として「活用」に関する問題
  - ②質問紙調査
    - 児童生徒に関する調査
    - 学校に対する調査
- 4 各教科の平均正答率

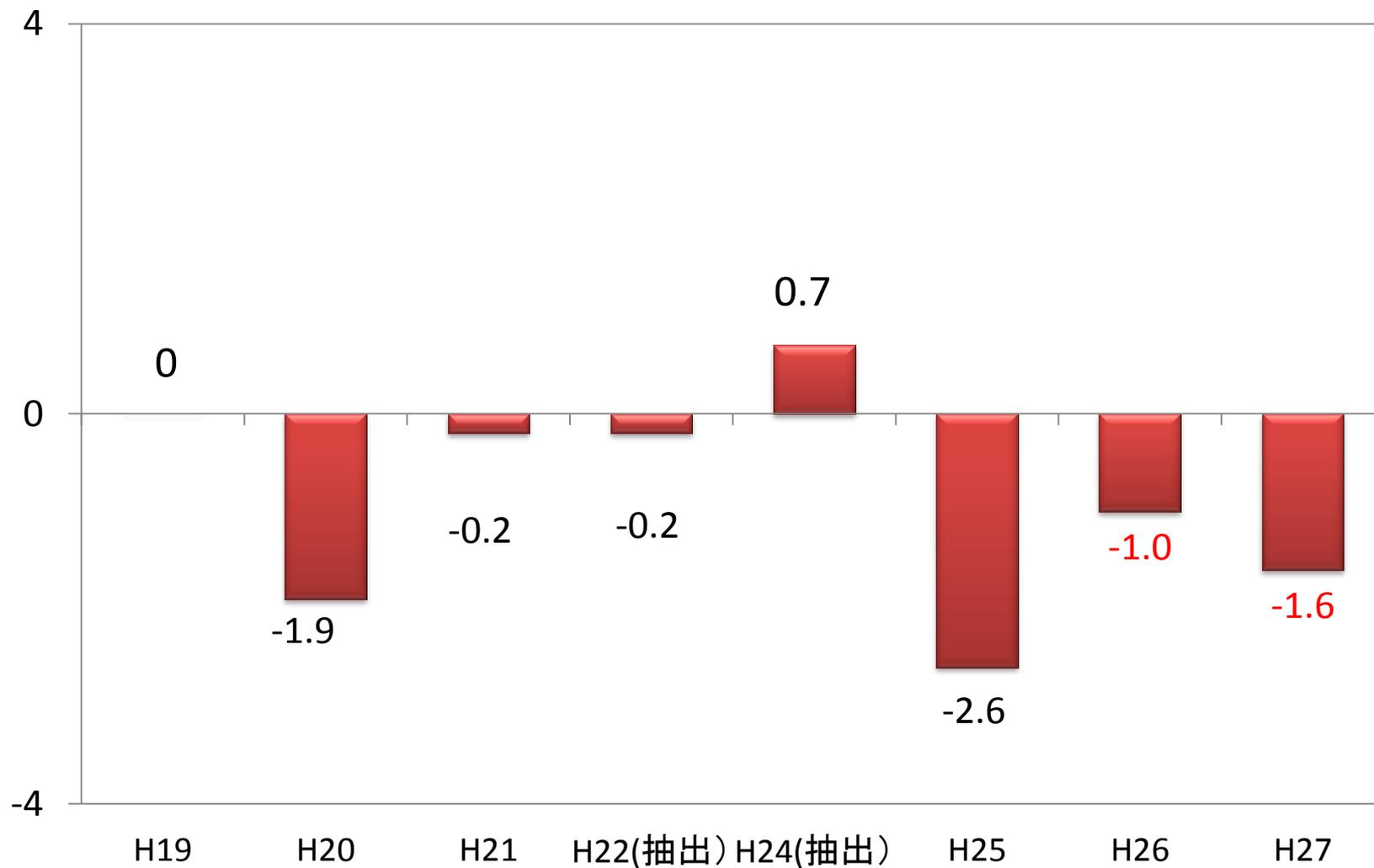
小学校	平均正答率(%)		
	島根県	全国	差
国語A	69.3	70.0	-0.7
国語B	63.8	65.4	-1.6
算数A	72.4	75.2	-2.8
算数B	42.2	45.0	-2.8
理科	59.8	60.8	-1.0

中学校	平均正答率(%)		
	島根県	全国	差
国語A	75.7	75.8	-0.1
国語B	65.6	65.8	-0.2
数学A	62.7	64.4	-1.7
数学B	39.6	41.6	-2.0
理科	53.1	53.0	+0.1

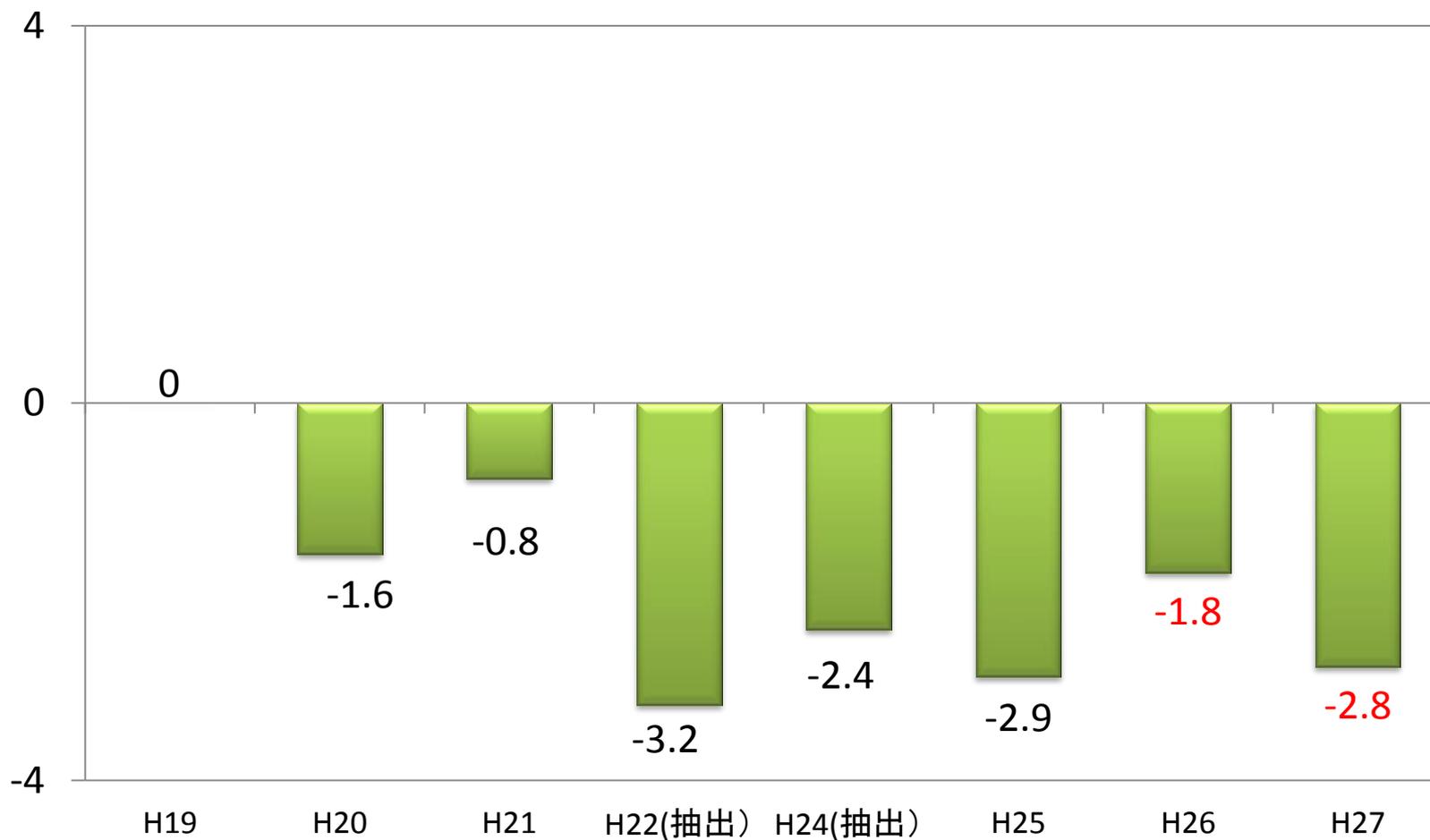
# 各教科の正答率の全国との差(小学校国語A)



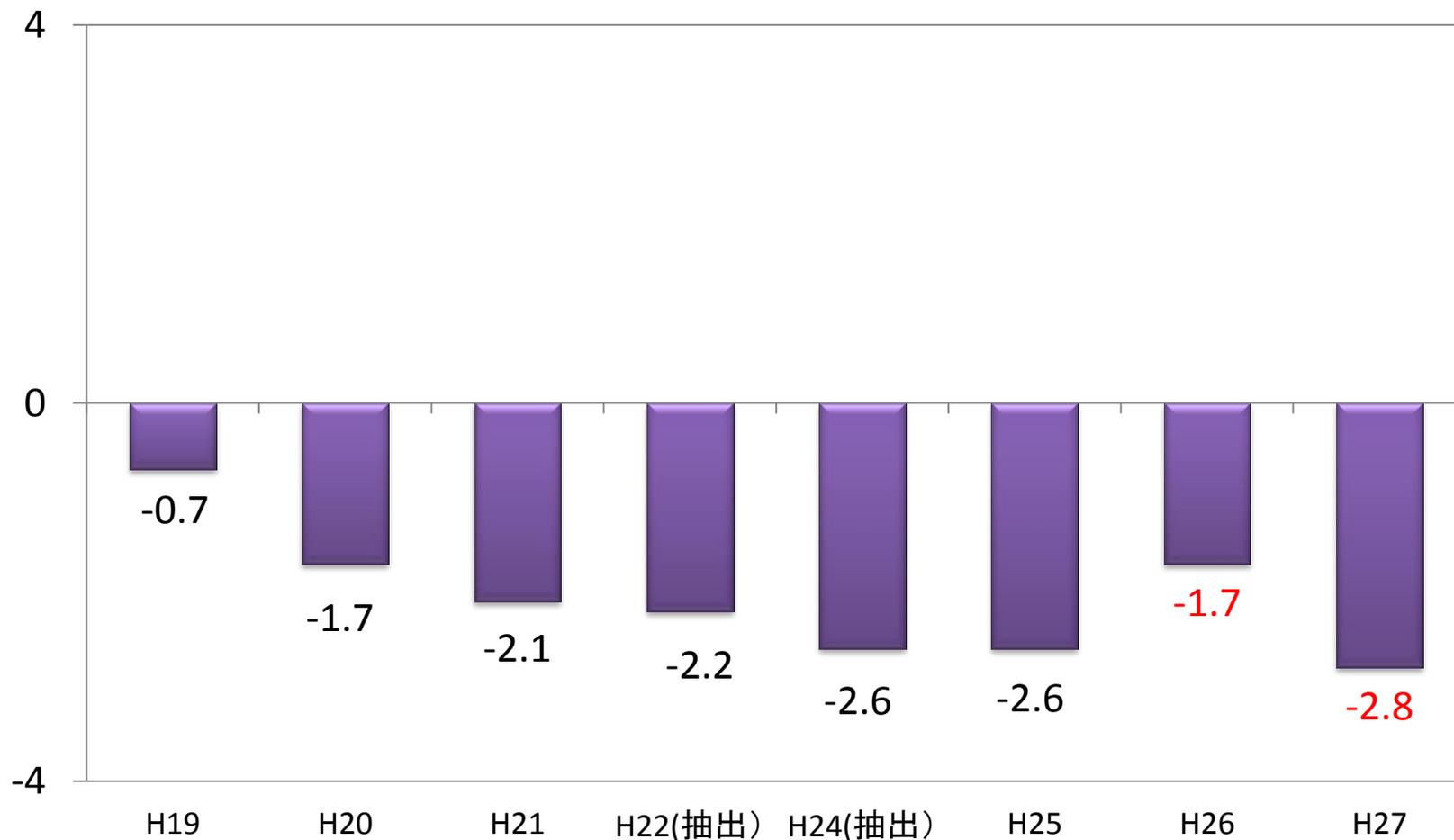
## 各教科の正答率の全国との差(小学校国語B)



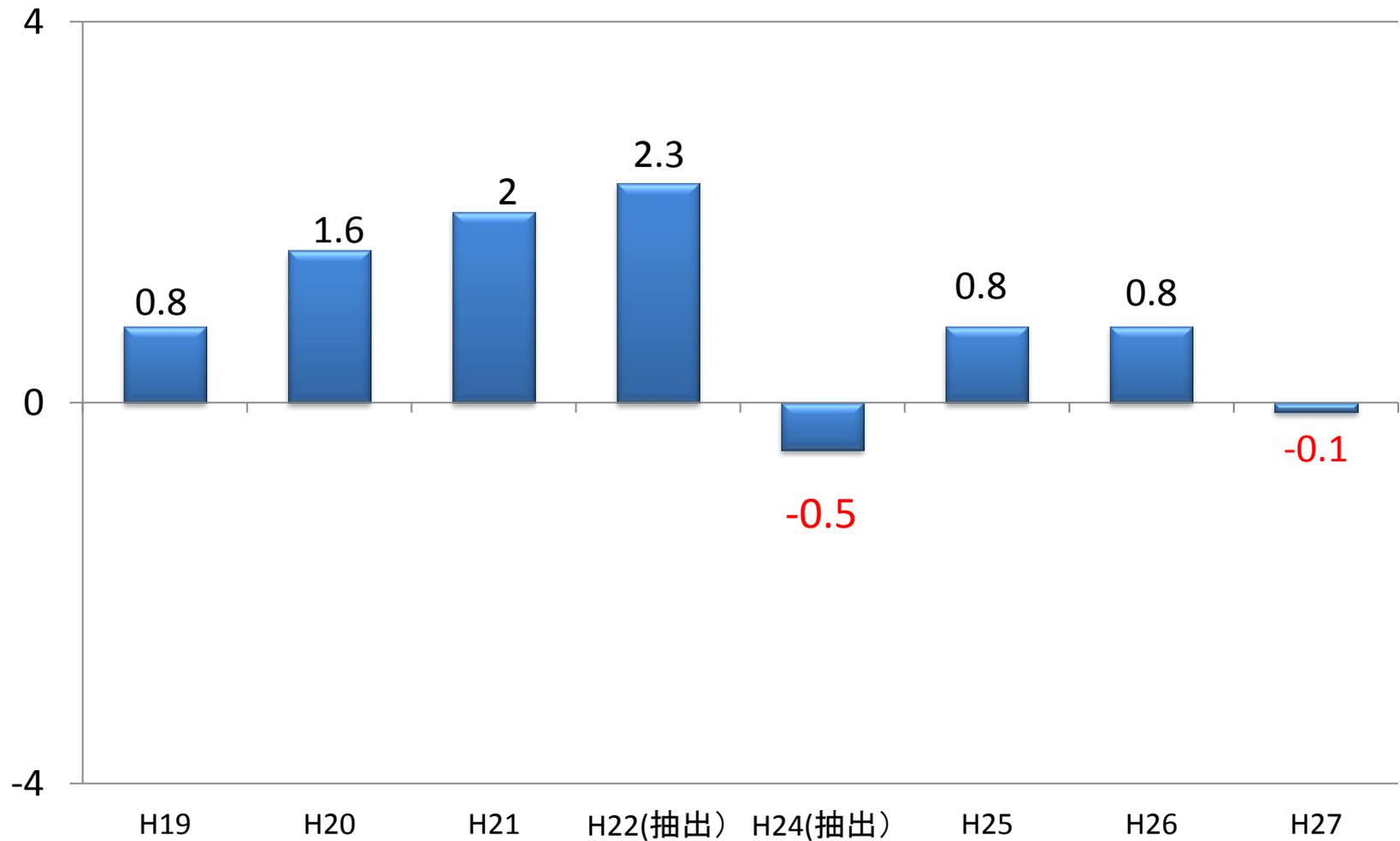
# 各教科の正答率の全国との差(小学校算数A)



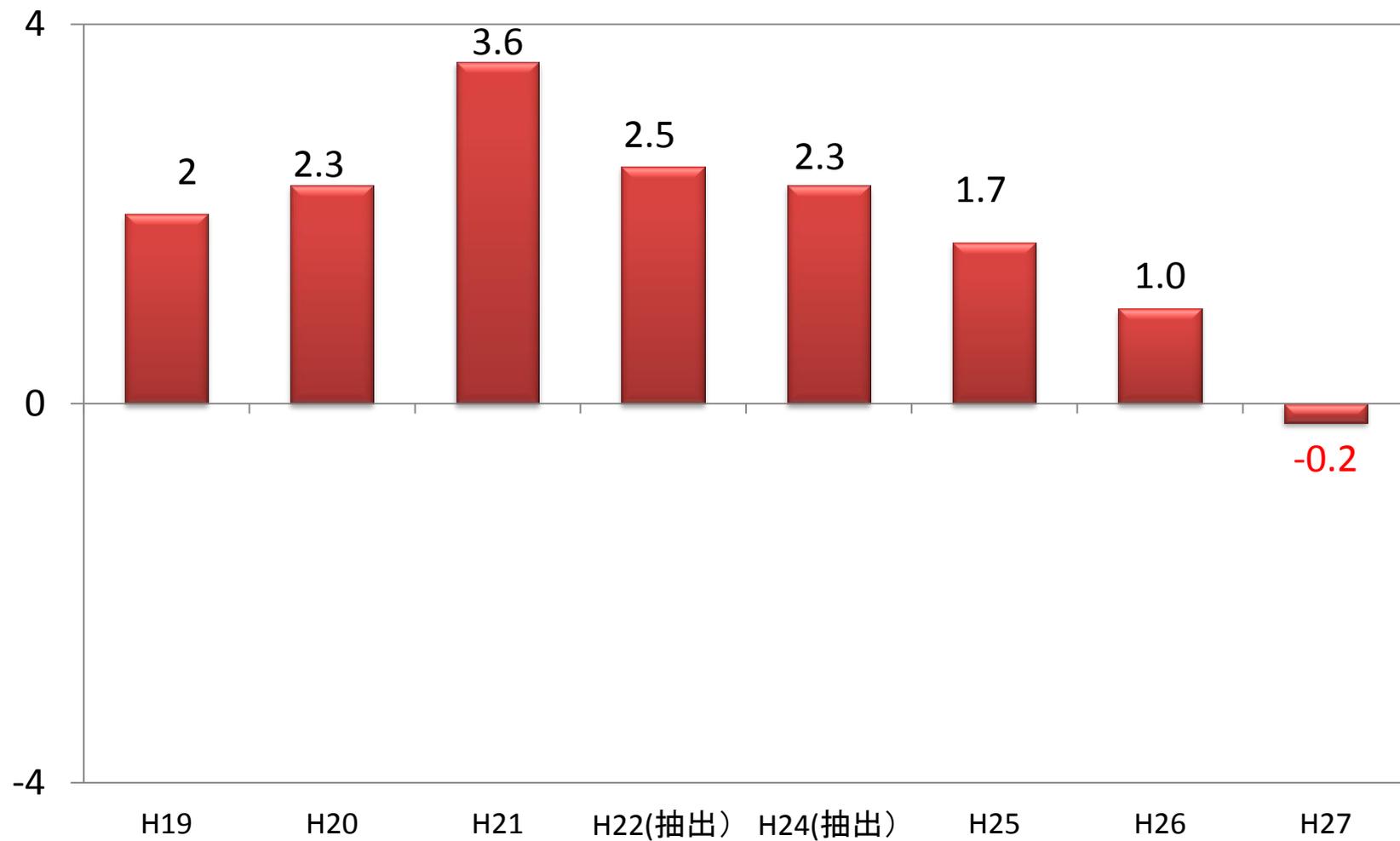
# 各教科の正答率の全国との差(小学校算数B)



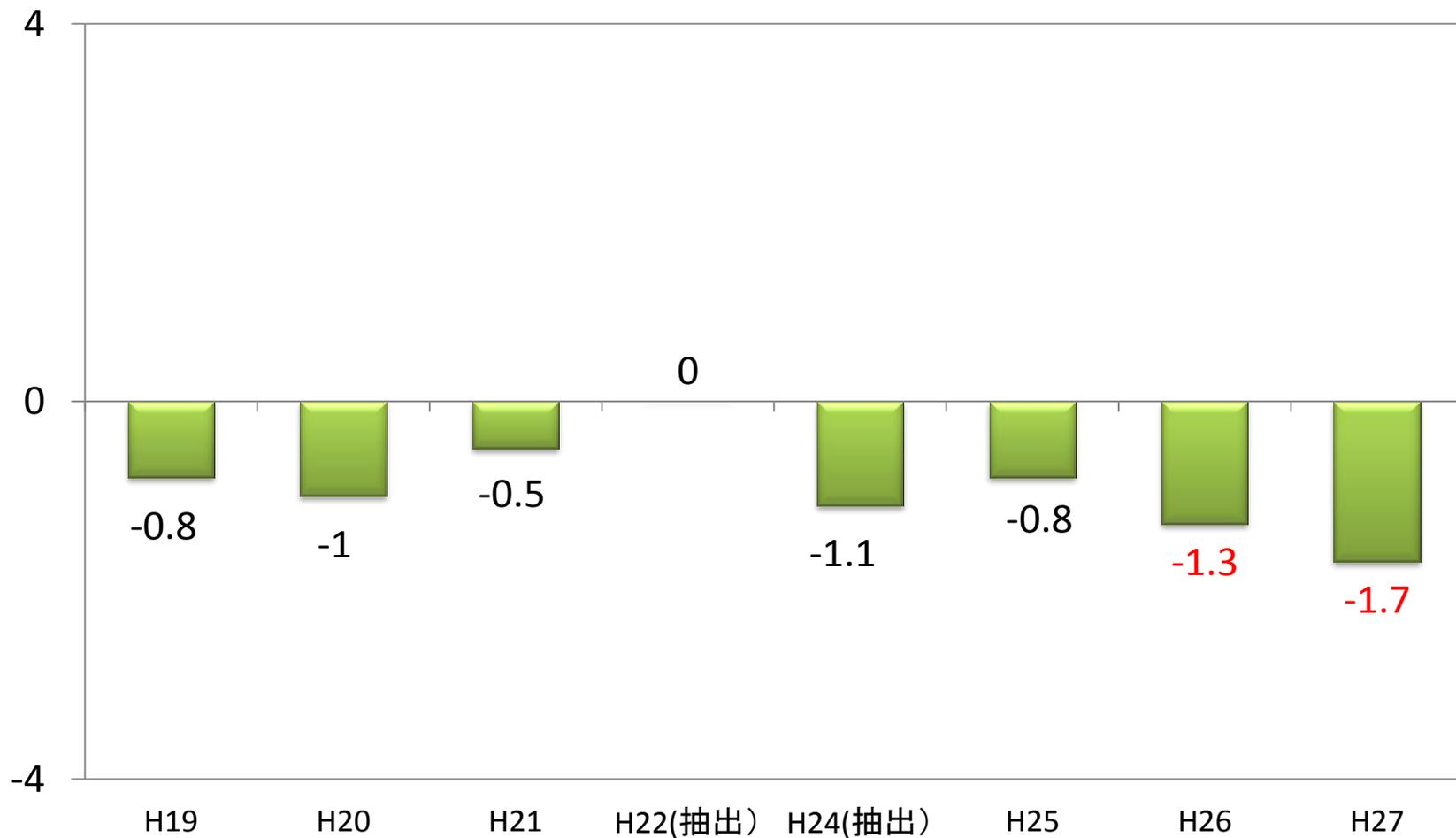
# 各教科の正答率の全国との差(中学校国語A)



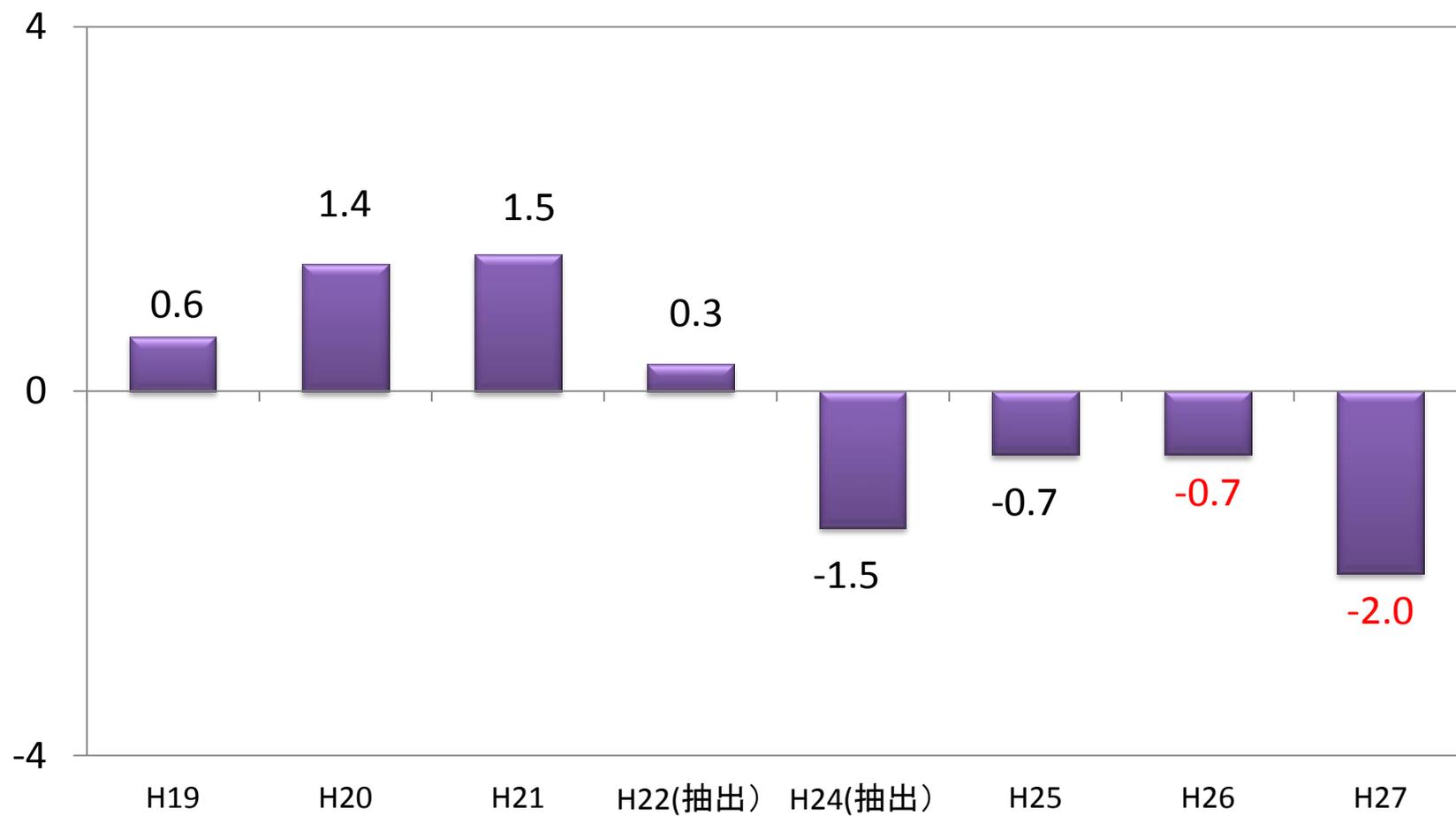
## 各教科の正答率の全国との差(中学校国語B)



# 各教科の正答率の全国との差(中学校数学A)



# 各教科の正答率の全国との差(中学校数学B)



# 家庭学習の状況(1)

(生)学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)



■ 3時間以上

■ 2時間以上、3時間より少ない

■ 1時間以上、2時間より少ない

■ 30分以上、1時間より少ない

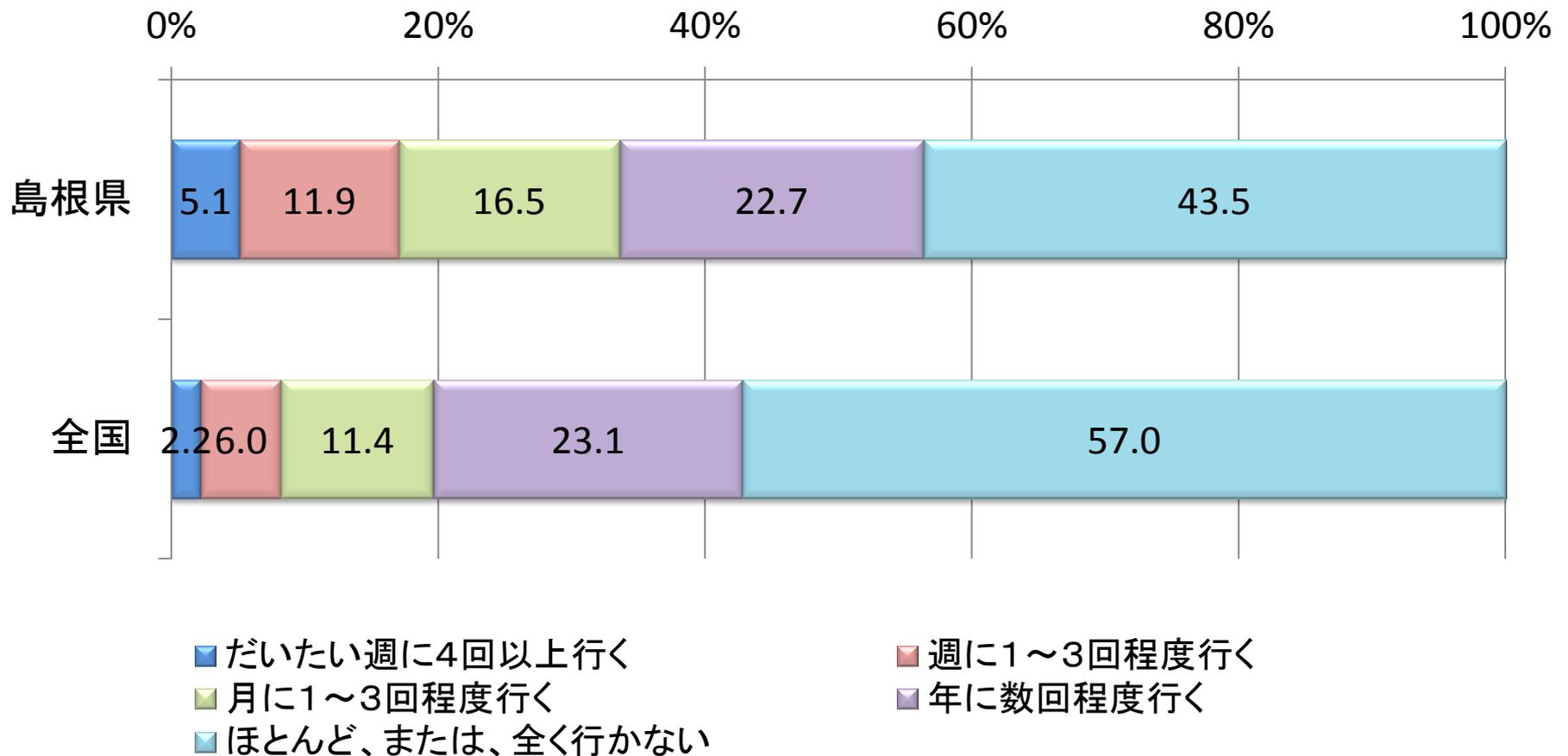
■ 30分より少ない

■ 全くしない



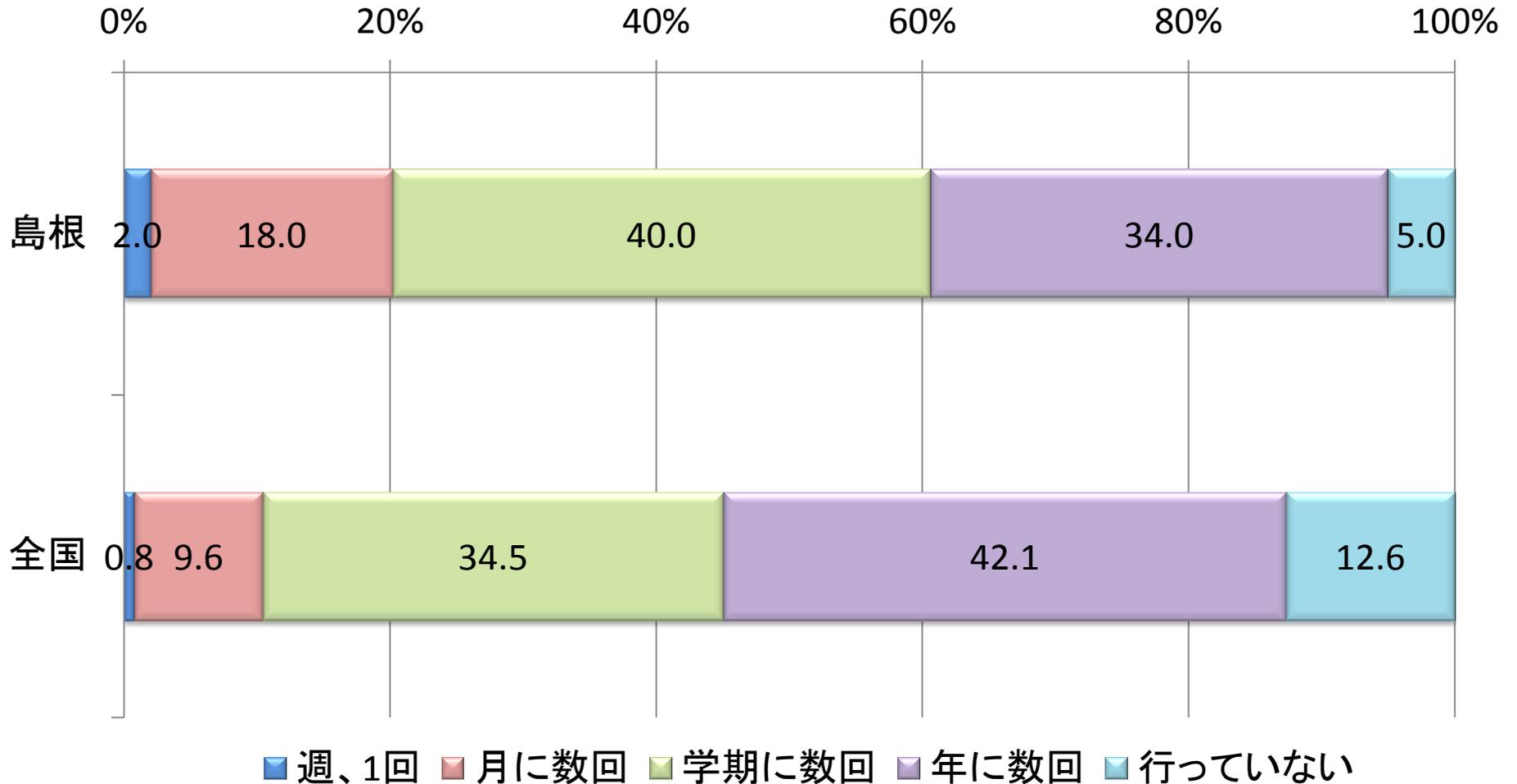
# 図書館利用

(生)昼休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか



## 図書館利用(2)

(学)調査対象学年の生徒に対して、前年度に、学校図書館を活用した授業を計画的に行いましたか

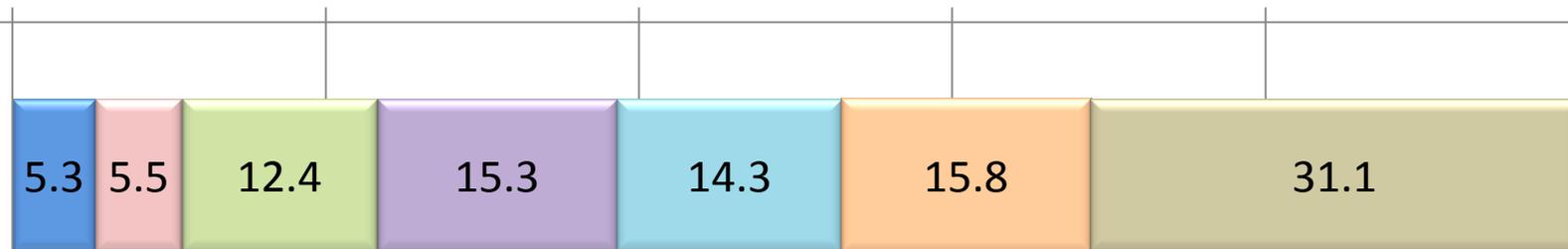


# 携帯・スマホ等の利用

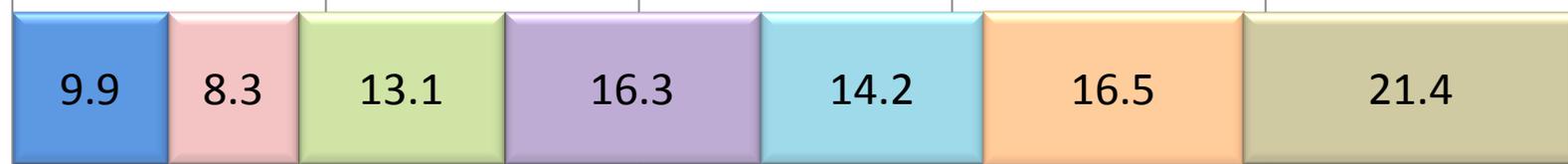
(生) 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)

0% 20% 40% 60% 80% 100%

島根県



全国



■ 4時間以上

■ 2時間以上、3時間より少ない

■ 30分以上、1時間より少ない

■ 携帯電話やスマートフォンを持っていない

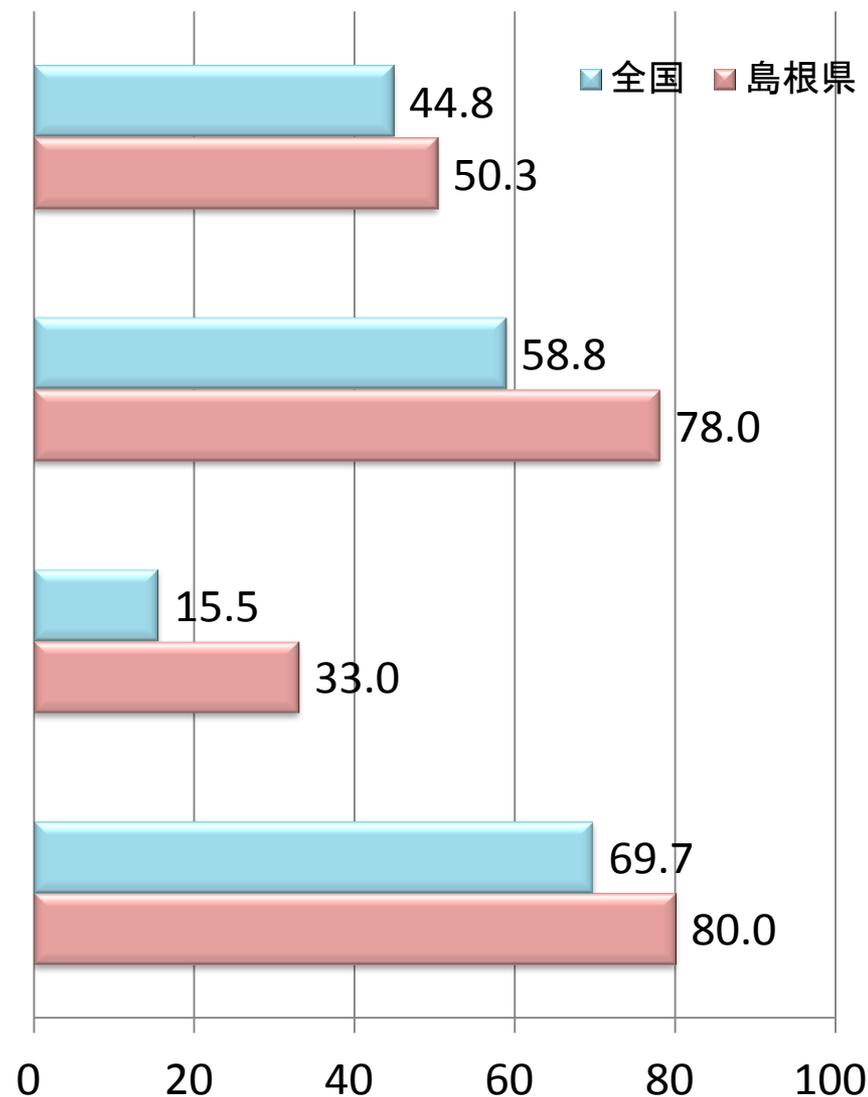
■ 3時間以上、4時間より少ない

■ 1時間以上、2時間より少ない

■ 30分より少ない

# 地域との関わり

質問事項	島根県	全国	島根県 - 全国
今住んでいる地域の行事に参加していますか(生)	50.3	44.8	5.5
調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか(学)	78.0	58.8	19.2
調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、博物館や科学館、図書館を利用した授業を行いましたか(学)	33.0	15.5	17.5
学校支援地域本部などの学校支援ボランティアの仕組みにより、保護者や地域の方が学校における教育活動や様々な活動に参加してくれますか(学)	80.0	69.7	10.3







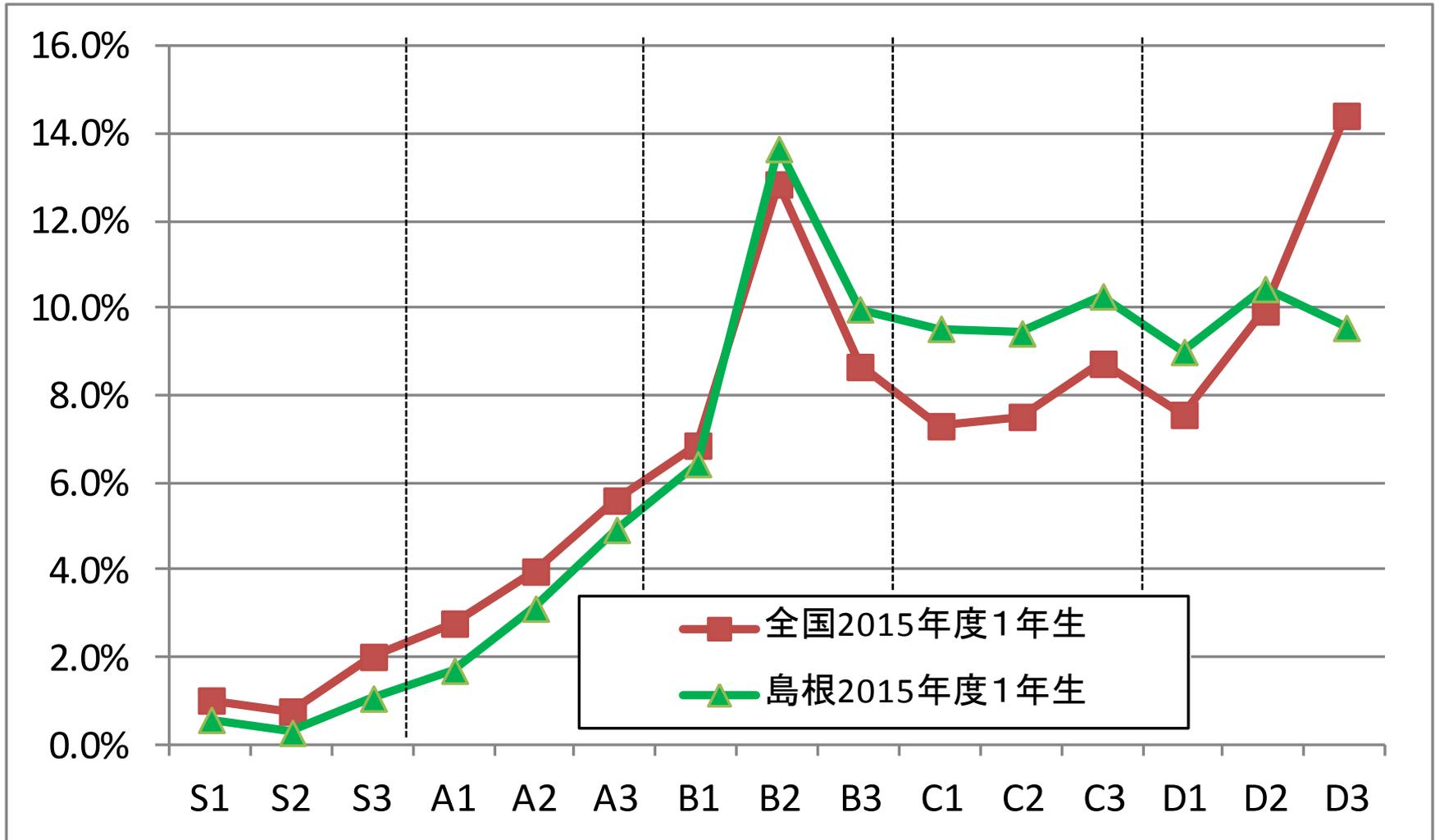
**島根県の高校生の学力について**

# 学習到達ゾーンについて(ベネッセコーポレーションが作成する基礎学力の指標)

学習到達ゾーン (GTZ)		進路選択肢	
		進学	就職
Sゾーン	S1	難関大合格レベル (最難関大はS1)	上場企業などの大手の 就職筆記試験や 公務員試験に 対応できるレベル
	S2		
	S3		
Aゾーン	A1	国立大合格レベル	
	A2		
	A3		
Bゾーン	B1	公立大合格レベル(一般入試)	
	B2	国公立大の推薦入試に合格可能で、 私立大の一般入試では、 選択肢が広がるレベル。	
	B3		
Cゾーン	C1	私大・短大・専門学校の 一般入試に対応可能なレベル。	就職筆記試験における 平均的評価レベル。
	C2		
	C3		
Dゾーン	D1	上級学校に進学することは できるが、授業についていけず、 苦勞する学生が多い。	就職試験で必要な最低限のラインは クリアしているが、仕事をする上で 支障が出ることが多い。
	D2		
	D3		筆記試験が課される企業では 不合格になることが多い。

# 県内高校1年生の基礎学力 全国との比較【国数英総合】(2015)

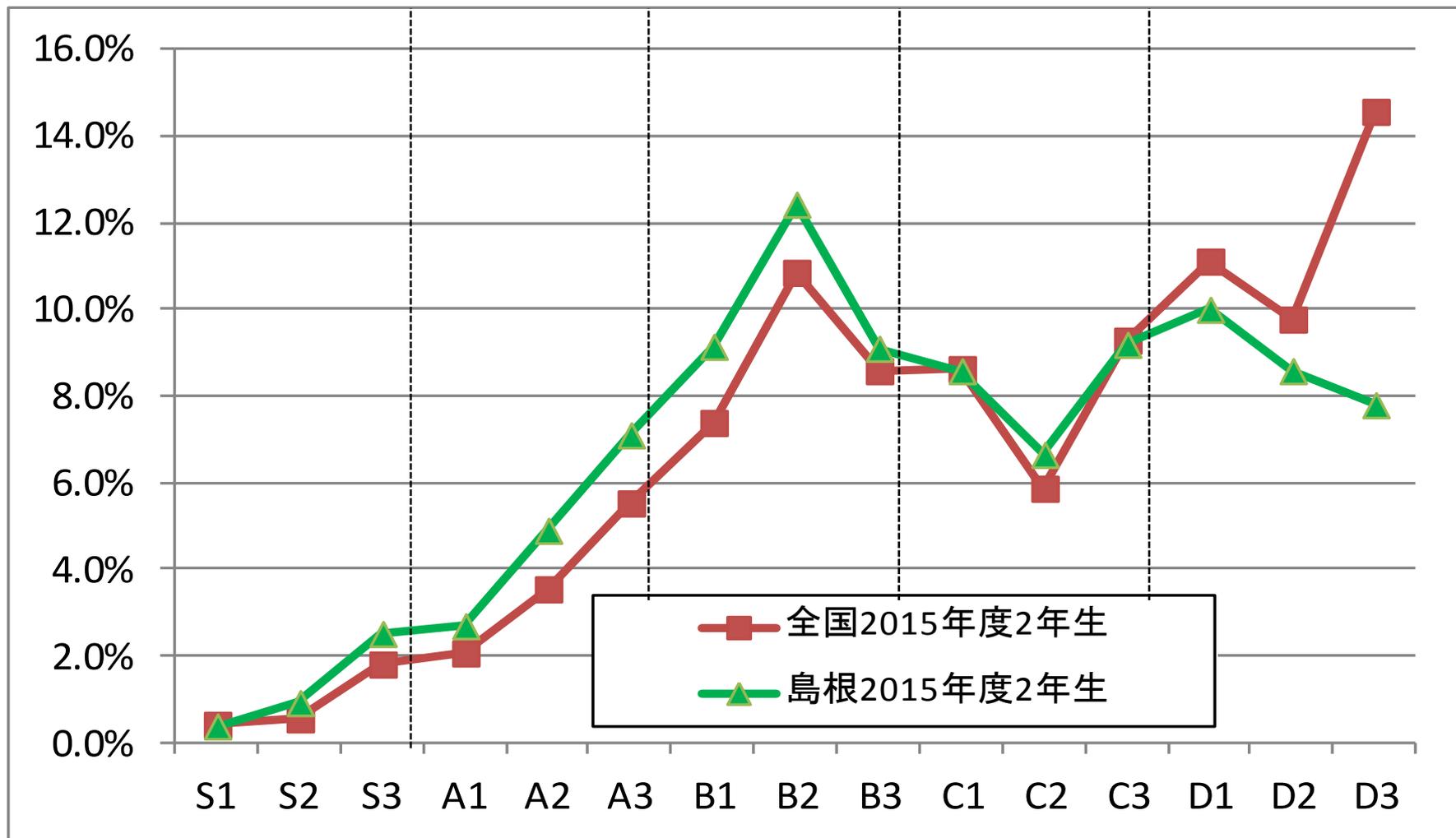
(データ提供: (株)ベネッセコーポレーション)



国数英総合の学習到達の分布は、  
全国と比べて、Aゾーンが少なく、Cゾーンが多い。  
D3ゾーンは全国よりも割合が少ない。

# 県内高校2年生の基礎学力 全国との比較【国数英総合】(2015)

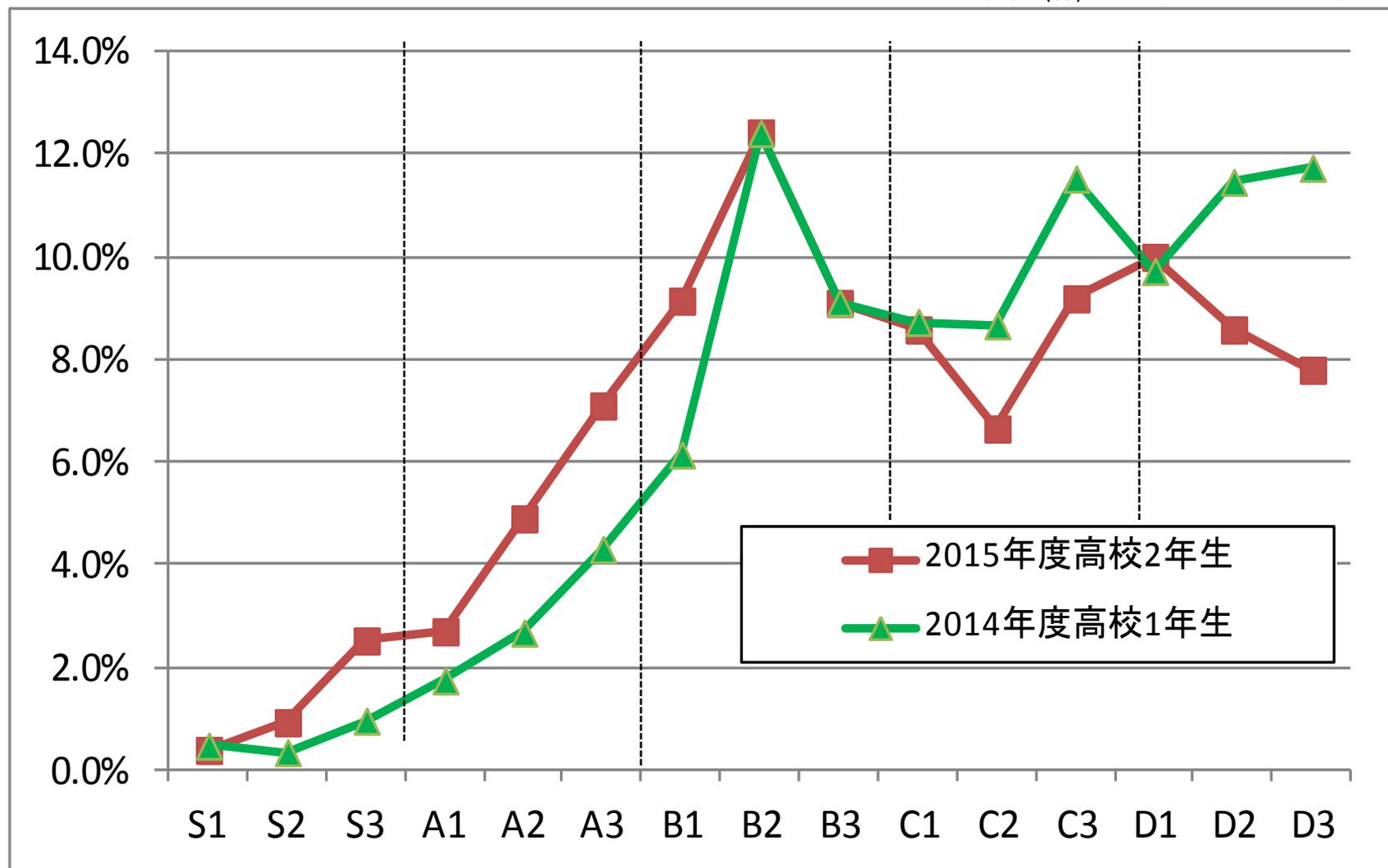
(データ提供: (株)ベネッセコーポレーション)



国数英総合の学習到達の分布は、全国に比べて、  
Aゾーンの割合が高く、D3ゾーンの割合が低い。

# 県内高校生1年4月→2年4月成績の推移【国数英総合】(2015)

(データ提供:(株)ベネッセコーポレーション)



高校入学後1年間で、国数英総合の分布は、  
Aゾーンが増え、Dゾーンが減少。

# 県内高校生の学習時間

## ●平日の家庭学習時間

回 答	島根県(H26入学生)		全国 (2年次)	2年次-1年次	全国との差 (2年次)
	1年次	2年次			
ほとんどしない	18.6	19.0	34.6	0.4	▲ 15.6
30分	20.4	14.2	17.6	▲ 6.2	▲ 3.4
1時間	26.0	19.4	19.4	▲ 6.6	0.0
1時間30分	13.6	15.1	11.1	1.5	4.0
2時間	15.7	22.0	12.1	6.3	9.9
3時間	4.1	8.7	4.1	4.6	4.6
4時間	1.0	1.1	0.6	0.1	0.5
5時間	0.2	0.2	0.2	0.0	0.0
6時間以上	0.1		0.1	▲ 0.1	▲ 0.1

# 県内高校生の学習習慣・意識

## ●数学の授業中の取組

回	答	島根県(H26入学生)		全国 (2年次)	2年次 -1年次	全国との差 (2年次)
		1年次	2年次			
	予習したことを授業で確認している	5.0	8.2	5.0	3.2	3.2
	理解できない点や疑問点は質問し解決する	35.7	20.1	24.4	▲ 15.6	▲ 4.3
	大切なことはノートや教科書に書き込む	26.8	33.2	31.4	6.4	1.8
	指名されたときのために教科書を調べておく	5.2	7.5	8.5	2.3	▲ 1.0
	板書をノートにとることに集中している	24.1	28.9	27.3	4.8	1.6
	授業に集中できない	3.0	1.8	2.9	▲ 1.2	▲ 1.1

## ●数学のすぐには解けない問題への対応

回	答	島根県(H26入学生)		全国 (2年次)	2年次 -1年次	全国との差 (2年次)
		1年次	2年次			
	すぐにあきらめて解くのをやめる	10.8	9.6	10.5	▲ 1.2	▲ 0.9
	すぐに教科書や問題集を見て解いてみる	37.6	59.0	53.6	21.4	5.4
	何も見ずに5~20分は自分で考えてみる	45.4	28.9	32.1	▲ 16.5	▲ 3.2
	何も見ずに20分以上は自分で考えてみる	5.4	2.1	3.0	▲ 3.3	▲ 0.9

# 県内高校生の学習習慣・意識

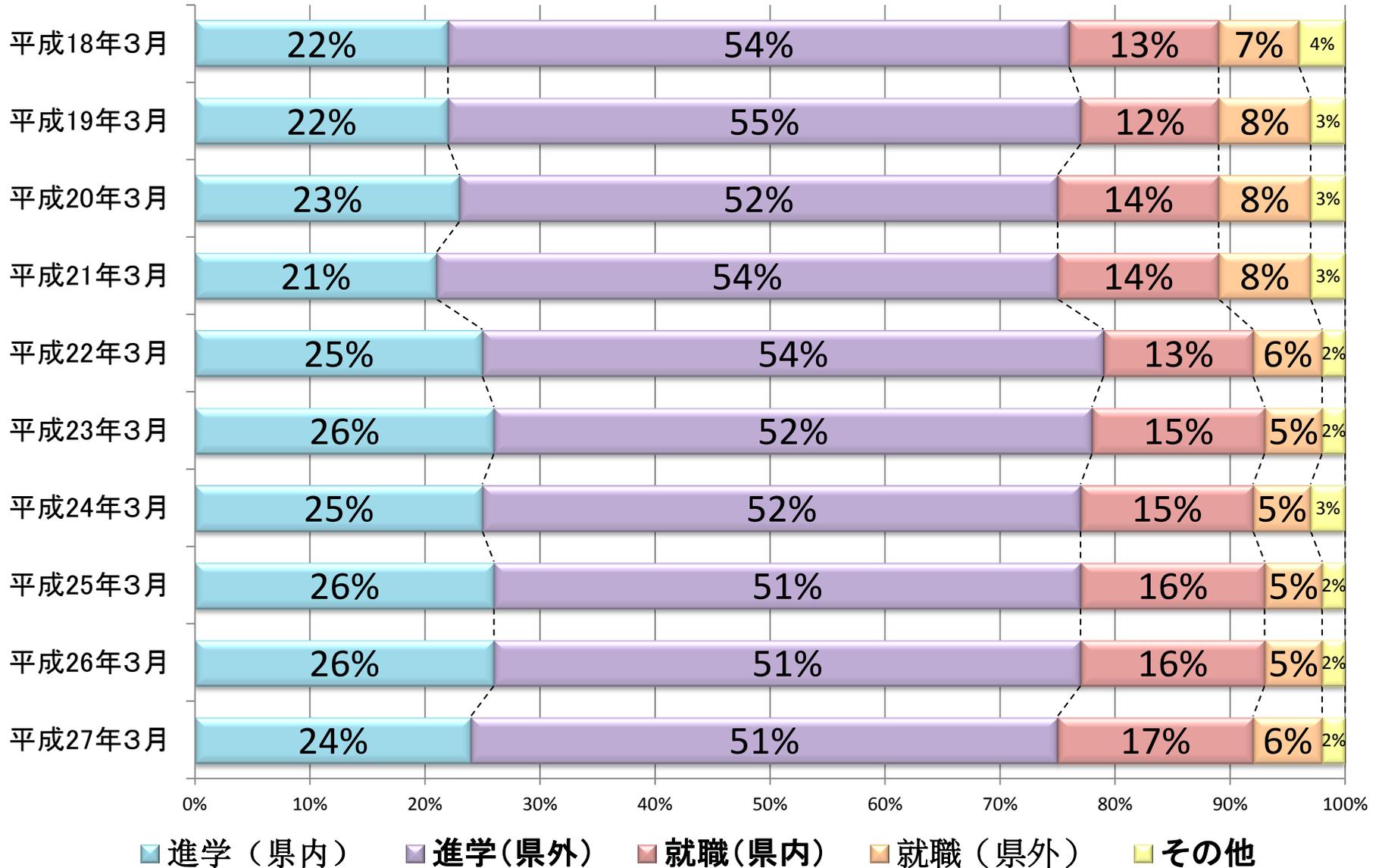
## ●本や新聞の読み方

回	答	島根県(H26入学生)		全国 (2年次)	2年次 -1年次	全国との差 (2年次)
		1年次	2年次			
	本も新聞もよく読む	11.0	6.6	7.2	▲ 4.4	▲ 0.6
	本はよく読むが新聞はほとんど読まない	49.0	38.1	40.5	▲ 10.9	▲ 2.4
	本はほとんど読まないが新聞はよく読む	9.7	10.2	7.8	0.5	2.4
	本も新聞もほとんど読まない	29.9	44.6	44.1	14.7	0.5

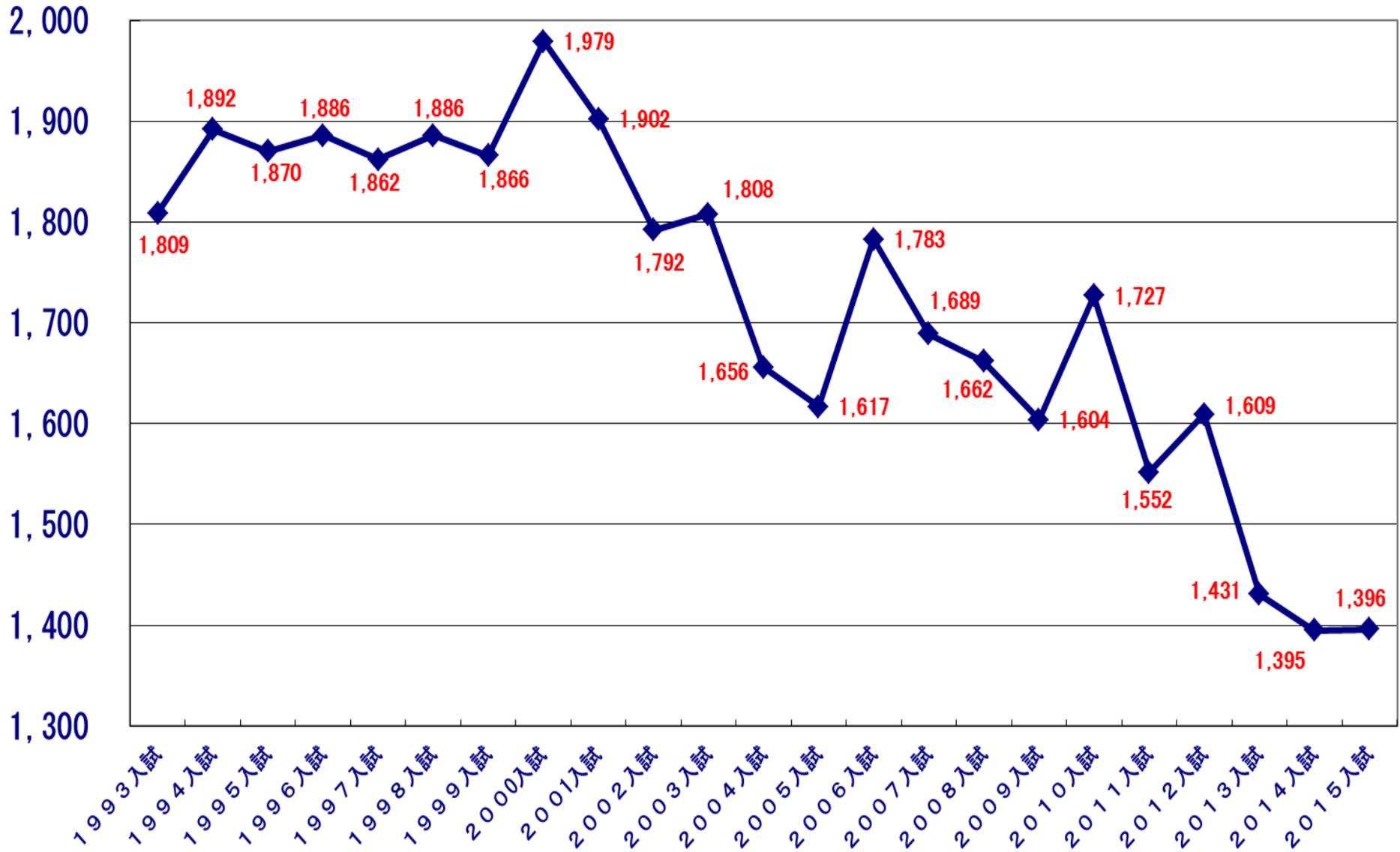
## ●英語を身につけたい程度

回	答	島根県(H26入学生)		全国 (2年次)	2年次 -1年次	全国との差 (2年次)
		1年次	2年次			
	国際社会で活躍できるくらい	12.7	9.3	13.3	▲ 3.4	▲ 4.0
	大学での専門教育を英語で学べるくらい	4.5	4.5	4.2	0.0	0.3
	海外進学をめざせるくらい	0.8	1.0	1.8	0.2	▲ 0.8
	海外の高校の授業に参加できるくらい	1.1	2.4	2.3	1.3	0.1
	ホームステイや語学研修を楽しめるくらい	6.0	8.6	8.1	2.6	0.5
	英語で日常的な会話を楽しめるくらい	37.8	38.4	41.4	0.6	▲ 3.0
	特に利用を考えていない	33.7	33.2	26.3	▲ 0.5	6.9
	その他	2.6	2.3	2.1	▲ 0.3	0.2

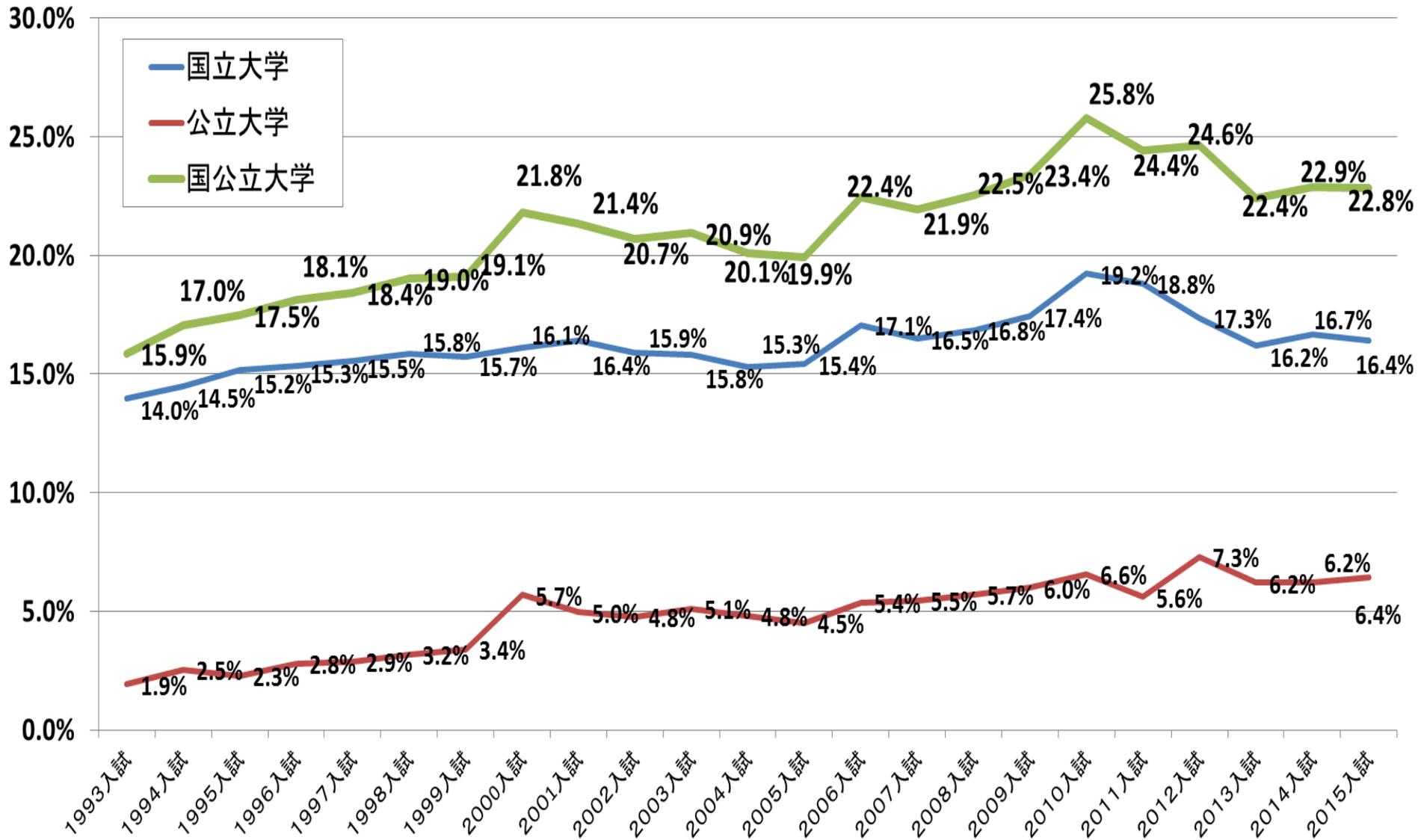
# 高校卒業時の進路



# 島根県 国公立大学合格者推移(1993入試～2015入試)



# 島根県高校 国公立大学 合格率推移(合格者数÷卒業生数)



合格者数データ：ベネッセ合格者数一覧2015

卒業生数データ：学校基本調査(全日制・定時制、公立・私立高校)

# 高大接続システム改革の全体イメージ～主体性を持って、多様な人々と学び、働くことのできる力を育む～

## 高等学校教育

### 教育内容の見直し

⇒次期高等学校学習指導要領の改訂など

【H26.11～中教審教育課程企画特別部会で審議中】

- ・教育目標・内容と学習・指導方法、学習評価の在り方を一体として捉えた学習指導要領等の基本的な考え方を明確化
- ・育成すべき資質・能力を踏まえた、教科・科目等の見直し

### 学習・指導方法の改善と教員の指導力向上

⇒教員の養成・採用・研修の見直しなど

【H27.12～中教審答申】

- ・学習・指導方法の改善に対応するための教員の指導力の向上

### 多面的な評価の推進

⇒学習評価の改善

- ・生徒の多様な学習活動・成果が評価され、指導に反映されるよう、学習評価の在り方や指導要録を改善

⇒多様な学習成果を測定するツールの充実

- ・生徒の基礎学力の確実な習得とそれによる学習意欲の喚起のための高等学校基礎学力テスト(仮称)の導入
- ・農、工、商業などの検定試験や英語などの民間検定の利活用の促進

## 大学入学者選抜

### 個別選抜の改革

↑  
ポリシーに沿った選抜

各大学において、入学者受入れの方針に基づき、例えば、下記の方法からどのような比重で活用するのか等を決定・公表

ア 大学入学希望者学力評価テスト(仮称)の結果

イ 自らの考えに基づき論を立てて記述させる評価方法

ウ 高校時代の学習・活動歴

- ・調査書
- ・活動報告書(個人の多様な活動、部活動、ボランティア活動、生徒会活動等)
- ・各種大会や顕彰等の記録
- ・資格・検定試験の結果
- ・推薦書等

エ エッセイ

オ 大学入学希望理由書、学修計画書

カ 面接、ディベート、集団討論、プレゼンテーション

右の3要素を左のような方法で評価

## 大学教育

各大学の教育理念に基づく三つの方針の一体的な策定を法令上位置付け、ガイドラインを策定

### 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

右の二つの方針を踏まえ、以下の3要素について各大学でどのような能力をどのような方法で評価するのかを明確化

①知識・技能

②思考力・判断力・表現力

※①を基盤にして答が一つに定まらない問題に自ら解を見出していく思考力・判断力・表現力等の能力

③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

### 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

各大学において、それぞれの卒業認定・学位授与の方針の達成のために、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを明確化

○カリキュラムの体系化

- ・多様な背景を持つ学生を大学教育に円滑に移行させるための「初年次教育」の充実
- ・個々の学生の能動的な学修を促進するためのカリキュラムの工夫
- ・広く深い学修を重ねられる学修環境の整備など

○卒業後を見据えた社会との連携強化

### 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

各大学において、どのような能力を身に付けた者の卒業を認定し、学位を授与するのかを明確化

○卒業に必要な要件の明確化と厳格な卒業認定・学位授与

### 大学入学希望者学力評価テスト(仮称)の導入

- ◆調査書の改善
- ◆個別選抜の改革の支援(アドミッション・オフィスの整備・強化、新たな評価手法の調査研究等)

- ◆三つの方針の策定及び運用に関するガイドラインの策定
  - ・三つの方針を起点とした大学教育に関する内部質保証の確立
  - ・各方針に照らした取組の適切性についての自己点検・評価
  - ・分かりやすく積極的な情報公開
- ◆ファカルティ・ディベロップメント(FD)、スタッフ・ディベロップメント(SD)の充実
- ◆認証評価制度の改善(三つの方針、内部質保証を評価等)